

科学ジャーナルのオープンアクセスとオープンデータに関するコメント

Comments on Open Access for Science Journals and Open data

*大谷 栄治¹

*Eiji Ohtani¹

1. 東北大学大学院理学研究科地学専攻

1. Department of Earth and Planetary Materials Science, Graduate School of Science, Tohoku University

科学情報を市民に公開するというオープンデータの潮流は、情報保護、情報国家管理の潮流とぶつかりつつ、急速にヨーロッパを中心に自由世界に広がりつつある。ここでは、オープンサイエンスは基本的に正しく、必要不可欠であるという立場から、日本におけるオープンサイエンスの課題の一つとして、科学ジャーナルの問題について取り上げる。ジャーナルは、科学者がそこに投稿し発表する機能、そのジャーナルから科学者および一般市民が情報を得るといった機能がある。そこでの主な問題点は次の3点である。

1. ジャーナルのオープンアクセス化の進展, 2. Data保管場所の必要性と我が国の現状, 3. ジャーナル問題: Package priceの高騰

ここでは、以上に3点について、コメントしたい。これらは緊急を要する課題である。いずれもJPGUの強いリーダーシップが必要であり、次期執行部の最重要課題である。

キーワード: 科学雑誌、オープンアクセス、オープンデータ、データ保管場所

Keywords: Science journal, Open access, Open data, Data repository